

# 時事新報

第千六百三十九號  
明治二十九年七月十九日 火曜日  
舊曆五月廿九日  
午前十時三十分  
午後四時三十分  
六月十八日發行  
(西曆一千八百八十七年)

### 時事新報定價

一、二月前金五十圓 ○三月前金一圓五十圓 ○六月前金三圓  
一、前金六圓  
○時事新報社ヨリ直接ニ購送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ  
郵費ニテ付 郵費ハ在テ  
時事新報廣告料前金一付

### 時事新報

一行廿四字 一日 二日 五日 十日 十五日 二十日 以上  
一行五十字 一日 二日 五日 十日 十五日 二十日 以上  
一行百字 一日 二日 五日 十日 十五日 二十日 以上  
一行三百字 一日 二日 五日 十日 十五日 二十日 以上  
一行五百字 一日 二日 五日 十日 十五日 二十日 以上

### 時事新報

### 鐵道敷設成功後力役者

人間社會には心を勞するものあり力を役するものあり  
力を役するものは何れの國にも常に人口の多數を占  
めて學術智識を乏しけれ殖産の道不當りて資本家  
と並び立て難きに至ると雖も流石に文明進歩の勢ひよ  
は敗れ難く蒸氣電氣の向ふ所著業を失ふて理勢の然  
らまひる所にして經濟眼を以て見れば此流の力役者  
は有るも無きも其に差支なきに似たりと有る無何れ  
か擇べど云へば其社會に跡を絶さん事より願はし  
けれ何と云へば力役の人數は多くて其人は思慮は乏  
しく一朝社會の變に際して衣食を失ふに至るとは飢  
寒に迫られて遂に世の安寧を妨ぐるの恐れありばな  
り所謂盛徳の君子ならん生死存亡の際に臨めても理勢の  
數を知り能く其分を安んずるもあらんやれども人  
間社會は君子の社會に非らず況んや下等の力役者流に  
於てを其窮して溢るるなからんを欲するは到底望む  
可からざるの望と云ふ可きのみ

世上一般の不景氣は爲めに力役社會に業を失ふるに  
事例の内古今ふ珍しからざれども是れは商工の活動  
と死かざる可らざるの不幸にして一弛一張、回復の時節  
なきにあらざる假令へ不景氣衰微の極に陥りたるもの  
にても國の元氣の根柢より枯るゝに非ざれば一陽來復の  
日は期して待つ可し或は事情劇まくして來復と待つゝ  
暇なき歟、人為の工風を運らして一時の急を救ふの方  
略なきに非ず即ち地方の便宜に従て土木の工を起すが  
如きも其一策として見る可きものあり例へば明治十七  
年の末より信越地方に鐵道の工事起したるは素と貧  
民救助の爲めなるか或は偶然の出來事なるか其邊り之  
を問はず兎に角是れが爲めに其近傍の力役者は職業  
手に餘りて衣食不足を告げず當時世間は一般に不景氣  
の底より沈み野蕪枯れ葉落るの最中、北隅隅り塵  
中の春を占めて得たりしは一時の工果して救急の  
効を奏して誤らざるの實を見る可し然りと雖も此  
種の救急法は假令へ經世家の作爲に出るも又偶然の出  
來事に由るも與一、一時の權道又僥倖として到底永久に  
可及性質のものなからざるは即ち我輩が特に世人の注  
意を促さんと欲する所のものなり近來鐵道の敷設は我  
輿論の是視する所と爲り日本鐵道會社興羽の線路を始  
めとして東海道の官設も既に半に及り山陽九州其他各  
所の工事續々着手に至らんとするに際して差向き必要の  
ものは土方人足れ仕事にして力役社會の繁昌は云ふま  
でも亦既に其一部分に鏡を得るの道を開き、其  
鏡は轉じて宿屋に入り飲食店に入り又轉じて米屋に渡  
り看屋八百屋へ渡る等無限の運轉に無限の賑ひを生ぜ  
下流社會一般の景氣は洋々として春の海の如くなる可

### 時事新報

誠に出度外次第なれども然りと雖も此景氣繁昌  
は唯一時の假相にして永く依頼を可及のものに非ざる  
依頼を可らざるのみならず今の繁昌の成跡は遠に以  
て下流社會を苦しむるの媒介たる可きもの土方人足等  
が工事に従せられて鏡を得るは一時の繁昌おれども其  
仕事成りて鐵道の便を開くに至り其運搬交通は働は力  
役社會に如何なる影響を及ぼす可きや假令鐵道からず人  
力車發明の時在り從前二人は鐵道人足より一人の客  
と擔担十里の路を往きたるものが人力車發明以後は一  
人の力能く一人は客と二十里外に送り届けて駕籠の人  
足復た顔色を働に入力車の使用にても尚ほ且つ斯く  
の如し況んや有力無邊の汽車あつてや汽車は往來一  
度其力を過するに於ては從來の地方より行はれ  
たる運搬交通の舊套を一掃するのみならず其波及す  
る所の變動は實に容易ならざるものを知る可し例へば  
東京横濱間の鐵道の爲めに驛路八里の間は殆んど人跡  
を絶ち車馬の往來稀れおして沿道の宿屋茶店一も舊時  
の面目を保つものなし又本月十一日より横濱國府津間  
は線路が開通して神奈川以西四十餘里は一時に寂然た  
りと云ふ

左れば鐵道は下流力役者の力を以て成り、其成りたる  
上は力役者の仕事を奪ふて之に禍するものあれば其工  
事お役せられて一時の衣食を得るの事情に剣を鍛て  
敵に賣るも他に異ならず生を成すの道即ち死を致すの  
媒介たる可きもの西洋諸國にても鐵道の他諸種の器  
械を人間の實業に適用して一時に力役社會の生計を奪  
ひ之が爲めに種々様々の苦情を生じて遂には破裂して  
社會の安寧を害さざるの事例は甚だ少からず我圖に  
於ても今日鐵道事業の盛んなるを見て退て數年後の事  
相を想像すれば聊か憂念す可きものあきにあらず本  
日本人民の性質は至極美順なるが故に容易に破裂亂暴  
の事もなかる可しと雖も破裂せざれば黙して窮する  
の難儀あるの益々氣の毒なる次第なれば經世の士人  
は今より豫防の策を講ず或は從來の田租を薄くし又は  
新地開墾の利を厚くして無業の力役者農に導き或は  
海外移住の道を開いて人口稠密の憂を免かるゝ等の邊  
は工風を運らすは特に今日に大切なる用心ある可し

### 官報

○海軍省訓令第七十四號 海軍一般  
航海練習艦隊自今砲術練習艦隊定ヲテ此  
旨心得ニシ  
○明治二十年七月十八日 海軍大臣伯爵西郷從道  
○長崎縣選舉者及被選舉者の數 長崎縣に於ては昨十九年十  
二月末日現在の縣會選舉權者數を調査せしに地租五圓  
以上を納むる者一萬九千一百一十一人にして内選挙權者一萬八千二百  
八十八人選挙權を行使せざる者七百三十一人なり又地租十圓以上を納むる者  
七千七百四十三人にして内選挙權者三千七百七十四人選挙權を行使せ  
ざる者三千九百六十九人なり  
○長崎砲臺兵士交代 熊本砲臺砲兵第六隊より長崎砲臺へ分  
遣せし兵士一名下士七名兵卒十七名は交代済みて去る六日歸營せり  
○外國船に係る被雇人計數 神奈川縣に届出たる本年一月  
より六月までの間外國船被雇人入當業者を計て外國船に雇はれた  
る被雇人の數は總計七十七名にして其別は二十一名なり(以上本年七月十八日官報)

○米國通信(六月廿八日桑港發) 六月十二日午前十時  
英艦サンパロ號は横濱より解纜して桑港に向へり船  
中には西洋人支那人共に多く支那人の乗客のみにも  
合計六百十一人と云ふ別に支那婦人二十三名を見受け  
たり此支那人は香港より本艦に乗込まつた者にして毎  
船便必ず斯くの如き多數の乗客有り皆パナマ地方に出  
稼するよし今六百十一人の組織を見るに組合三組に分  
れ各二三人の頭あり此頭より前金若干を與へる若干年  
間の傭入れを承まつたものなれば自餘一切の支那人は  
其頭を尊敬するものゝ如く見受らる又日本人は合計十  
八名にして中に田中鶴吉井上角五郎福岡秀清原三千作  
の諸氏有り福岡原兩氏ハニューヨーク府赴きて大學  
校に入り其餘諸氏は概ね桑港に在留するの衛生と今  
此衛生を見るに年齢は二十歳前後に在る在る在るで教  
育を受けず殊に英語と讀み英語と話す者甚だ少なく加  
ふるに渡航旅費は外米金百も所持すれば既上などの  
部類なるが如し故に此等の衛生は桑港後みな小使給  
仕杯に備はるゝの決心あり所持金も少く英學も淺く  
而て海外に在留するとなれば此等の衛生は往々にし  
て失敗を取り他郷に流浪するに至るも亦怪しむ足ら  
ず扱て今回の航海はイト平穩おして風も少く且常に  
晴天なりしかば舟行亦速かなりし十八日に及び終に  
二三の珍事を船内に生じた同日夜の明るくや否や船  
中其だ騒々しく何事からんと起き出で見るに支那乗客  
と支那水夫とが食物に付喧嘩を始め互に打やら擲くや  
ら大騒動の末雙方共に負傷したしが船長リード氏は之  
を取押へて支那人三名に手錠を符符片付たるを  
船長は乗客切符を取立てたるに日本人某は切符を持  
たせし且一錢の所持もなきに付本船に於て之を船内人  
の見易き所に立たせ先づ西洋人支那人も之を見  
て日本人の不實を嘲り爲めに日本人の面目を失へり兎  
角寒寒衛生の洋行に望まじきことにあらざると思はる又  
午後四時頃本船忽ち進行を止め甲板に上りて身投身投  
げと呼び立てれば急に甲板に出で見るに浮球を海  
に投ずるやち端艇を御し掛けるや上下と下へと騒ぎ立  
てたれども終に死屍を見當らずして亦進行を始めたり  
抑も本日身投せしものは英國人ヒッソー・マッツン氏  
(年齢四十歳)にして桑港に住居し財産は五萬弗程も所  
持せざれども永く航海の業を執り既に本船乗組員で月給  
五十弗ありしが忽ち船頭より飛下りて非命の死を太平洋  
洋中に遂げたるは氣の毒の事共なり同人の身投げは全  
く發狂には相違おるべきも其原因は甚だ詳ならず  
或は云ふ同人は桑港に在る情婦の事に付録で心配し居  
たりと又一説は本船が横濱出帆の時同人は乗客の見  
張をなせしに誤つて切符なき日本人某を乗込ませたる  
と本日に至りて明白となりたれば船長が一言二言の  
罵詈雑言を以て撥て種々心配の事柄も有るが故に彼れ  
是れに於て發狂せしならんとヒッソー・マッツン身投げれ  
後船長は日本人某に船内の小使掃除などを言付け桑  
港着後直に上陸させ船費をば取立てぬこととせり乗  
組の日本人は之を知りて益々面目なく各多少の金  
を帯びて一封とかし祭祀料の尤光之を船長リード氏に托  
してマッツン氏の家族に贈れりマッツン氏は横濱を  
出帆して以來常に東北に向ひたれば十六七日より漸く  
五塞を極め左ながら日本の冬季の如く人々忍冬服を  
出して之を着せしめられとも逆ても充分に暖氣を取り難く  
十九日に至りて最も北方に片寄りしが其翌日には方向  
を東南に轉て二十一日より漸く暖氣となりしも乗客  
多くは風邪に罹れり兎角洋中は寒暖常ならずれば夏時  
の航海猶ほ冬服の用意なかるべからず同船は二十六日  
午後三時着き桑港に着せり而して日本乗客多くはコ  
スモボリツクノホテルに宿泊せり

○米作改良  
作の改良を  
を招き各地  
に四百五十  
薬課長板原  
し所小よ  
都合宜し  
氣にさへ惡  
作改良の試  
せり或は新  
れども多く  
前日の比に  
粒一甚多  
は一粒三四  
村中嶋久馬  
上田村小池  
一層上出来  
り左れば之  
改良したる  
據れ一粒  
○二十年上  
國の各銀行  
て株主に報  
各國立銀行  
面を以て其  
有りたるも  
も掲載せん

銀行名簿  
新島 第四  
東京 第七  
高島 第十五  
長崎 第十六  
東京 第三十三  
東京 第三十五  
東京 第三十六  
東京 第三十七  
東京 第三十八  
東京 第三十九  
東京 第四十  
東京 第四十一  
東京 第四十二  
東京 第四十三  
東京 第四十四  
東京 第四十五  
東京 第四十六  
東京 第四十七  
東京 第四十八  
東京 第四十九  
東京 第五十  
東京 第五十一  
東京 第五十二  
東京 第五十三  
東京 第五十四  
東京 第五十五  
東京 第五十六  
東京 第五十七  
東京 第五十八  
東京 第五十九  
東京 第六十  
東京 第六十一  
東京 第六十二  
東京 第六十三  
東京 第六十四  
東京 第六十五  
東京 第六十六  
東京 第六十七  
東京 第六十八  
東京 第六十九  
東京 第七十  
東京 第七十一  
東京 第七十二  
東京 第七十三  
東京 第七十四  
東京 第七十五  
東京 第七十六  
東京 第七十七  
東京 第七十八  
東京 第七十九  
東京 第八十  
東京 第八十一  
東京 第八十二  
東京 第八十三  
東京 第八十四  
東京 第八十五  
東京 第八十六  
東京 第八十七  
東京 第八十八  
東京 第八十九  
東京 第九十  
東京 第九十一  
東京 第九十二  
東京 第九十三  
東京 第九十四  
東京 第九十五  
東京 第九十六  
東京 第九十七  
東京 第九十八  
東京 第九十九  
東京 第一百  
東京 第一百一  
東京 第一百二  
東京 第一百三  
東京 第一百四  
東京 第一百五  
東京 第一百六  
東京 第一百七  
東京 第一百八  
東京 第一百九  
東京 第一百十  
東京 第一百十一  
東京 第一百十二  
東京 第一百十三  
東京 第一百十四  
東京 第一百十五  
東京 第一百十六  
東京 第一百十七  
東京 第一百十八  
東京 第一百十九  
東京 第一百二十

○大坂通信  
計畫はあり  
の折柄實行  
は後御はえ  
加ふるこ  
及び同區  
車の往來少  
は漸次に道  
区ある由  
二十名乗